

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童が思いをもって取り組めるよう、多様な考え方や感じ方に触れられるペア学習やグループ学習を取り入れたことで、児童が自信をもって学習活動に取り組むことができるようになった。
- ・音楽が楽しいと感じられるような身体を使った活動などを多く取り入れる中で、自然で無理のない声で歌うことや、どのように歌うか思いや意図をもち、表現に生かすことができた。
- ・音符や休符、記号などに繰り返し触れることで、読み方や意味が分かるだけでなく、表現の幅を広げたり、曲想などとの関わりに気付いたりするなど、実際の活動に生かすことができた。
- ・今年度も継続して学年の実態に応じてICTを活用することで、見通しをもって学習に取り組んだり、学んだことを共有したり、他者の考えや思いに触れることができた。

(2) 課題

- ・昨年度同様に表現することに慣れていない児童や思いや意図をもつことが難しい児童もおり、生活体験などの経験不足から個人差が見られる。音楽の学習を通して、他者の考え方に触れることで、児童が思いをもって取り組めるような工夫をしていく必要がある。
- ・ICTの効果的な活用について、今後も学習のねらいに応じて児童が学習道具の一つとして使うことができるように提示していく必要がある。

2 授業改善のポイント

① 低学年

- ・遊びながら歌う活動や自然な体の動きを伴った活動を意識的に取り入れながら、自分の歌声や表現に気を付け、友だちと一緒に合わせる楽しさを感じられるようにする。
- ・リズムの模倣や階名唱を行い、リズム感覚や、音程感覚を身に付けられるようにする。

② 中学年

- ・楽曲の特徴について気付きを深められるような声かけや、様々な表現方法などを提示して比較する活動、友達と意見を共有する活動などを通して、思いや意図をもって音楽活動できるようにする。
- ・リコーダーの学習では、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けられるよう、視覚的なものを提示し、イメージを膨らませるようにする。

③ 高学年

- ・思いや意図を表現する技能を身に付けるため、音符や休符、記号などに繰り返し触れ、曲想などとの関わりについて気付かせるような声かけを行っていく。また、楽譜を見て歌詞や階名で歌ったり演奏したりできることの必要性を実感できるよう指導していく。
- ・ねらいに応じてタブレットを活用し、主体的・協働的に学習に取り組むことができるようにする。

